

Investor Presentation

2027年3月期 第1四半期 決算の概要



株式会社CCIグループ
2026年7月30日

1	第1四半期 決算のポイント	P.3
2	第1四半期 損益の概要（連結・単体）	P.4
3	中計経営戦略2026の進捗状況	P.5
4	預貸金の状況（残高・利回り）	P.6
5	有価証券の運用状況と今後の投資戦略	P.7
6	円債投資の状況	P.8

業績概要

- 経常収益 278億円（前年同期比 +20億円）、経常利益 72億円（前年同期比 ▲11億円）
当期純利益 75億円（前年同期比 +18億円）
- 北國銀行単体のコア業務純益は 69億円（前年同期比 +32億円）
- 日本銀行の政策金利の引き上げを受け貸出金利息や有価証券利息配当金は増加したものの、株式売却益の減少により経常利益は前年比減益となる。

通期計画の進捗

- 当期純利益は通期計画 170億円に対し進捗率 44%（経常利益は計画 265億円に対し 27%）。
- 第1四半期については、法人税等調整額の減少により中間期予想に近い利益水準となったものの、今後の経済・金融情勢で変動する可能性があり、現時点では計画の変更は行わない。

収益環境

- 政策金利 1.00%へ引き上げに伴い、短期プライムレートを見直し（2.825%→3.075%）
- 貸出金利回り 1.447%（前年同期比+0.258%）、預金利回り 0.243%（前年同期比+0.098%）
預貸金利回り差 1.204%
- 法人コンサルティング業務は、大企業案件、金融機関案件の契約が順調に進捗
キャッシュレス業務は決済額増加の一方で、加盟店数・加盟店稼働率が下回り微減の状況

第1四半期 損益の概要（連結・単体）

CCIグループ 連結

（単位：百万円）

	2025/6	2026/6	増減	増減率
経常収益	25,809	27,884	+ 2,075	8.0%
経常利益	8,338	7,213	▲1,125	▲13.5%
当期純利益	5,709	7,521	+ 1,812	31.7%

北國銀行 単体

（単位：百万円）

	2025/6	2026/6	増減	増減率
経常収益	21,562	23,418	+ 1,856	8.6%
経常利益	7,925	7,150	▲775	▲9.7%
当期純利益	5,420	7,574	+ 2,154	39.7%
コア業務純益	3,721	6,963	+ 3,241	87.1%

・ 政策金利上昇による各種金利引き上げや、前年度に行った市場部門ポートフォリオ見直しの結果、資金利益が前年同期比で増加。一方で、有価証券売却益の減少や経費の増加により、経常利益は前年同期比で減少。

・ 四半期純利益は、過去に計上した貸倒引当金に対する、法人税等調整額の減少により、前年同期比で増加となる。

中計経営戦略2026に対する進捗状況

(金額：百万円)

	2027/3 計画	2026/6 実績	進捗率
銀行事業収益	53,240	15,167	28.5%
新事業収益	14,385	1,705	11.9%

	2027/3 計画	2026/6 実績	進捗率
事業性貸出・リース (蓋然性評価：A)	31,067	7,147	23.0%
消費者ローン (蓋然性評価：A)	11,007	2,650	24.1%
市場運用 (蓋然性評価：A)	25,142	5,353	21.2%
キャッシュレス (蓋然性評価：B)	1,866	374	20.0%
コンサルティング (蓋然性評価：B) (BPO・投資助言・海外コンサル含む)	3,008	669	22.2%
投資・運用 (蓋然性評価：C)	3,045	244	8.0%
デジタル・システム (蓋然性評価：B)	1,213	307	25.3%
地域活性化 (蓋然性評価：B)	671	98	14.6%

- 銀行事業については、貸出・市場運用などの事業を中心に順調に進捗
- 与信コストは3億円（通期計画 50億円）
- 新事業については、コンサルティング事業、デジタル・システム事業の進捗は概ね計画通り
- 投資・運用事業などは収益が特定の案件・時期に計上となり期中は平準的に進捗しないことから、蓋然性評価に基づき保守的に計画。進捗率は低位ながら想定範囲内であり、現時点で全体計画の達成に懸念はなし

< 蓋然性評価について（2026/3期 IR資料再掲） >

①事業毎の不確定要素や将来見通しの違いを踏まえ、蓋然性を3段階で評価し収益・費用に反映。蓋然性が低い事業では、収益を保守的に見込む一方、費用は不確実性を考慮した水準で設定。

高い	蓋然性	低い
A	B	C
不確定要素が少なく業績変動性が低い	不確定要素・変動性ともに中程度	不確定要素が多く業績変動性が高い
(例) ファイナンス事業 市場運用 等	(例) コンサルティング事業 キャッシュレス事業	(例) ファンド事業 与信コスト

②不確定要素の大きい事業については保守的な前提で計画を検討しており、その結果、全体計画は達成確度の高い水準。

預貸金の状況（残高・利回り）

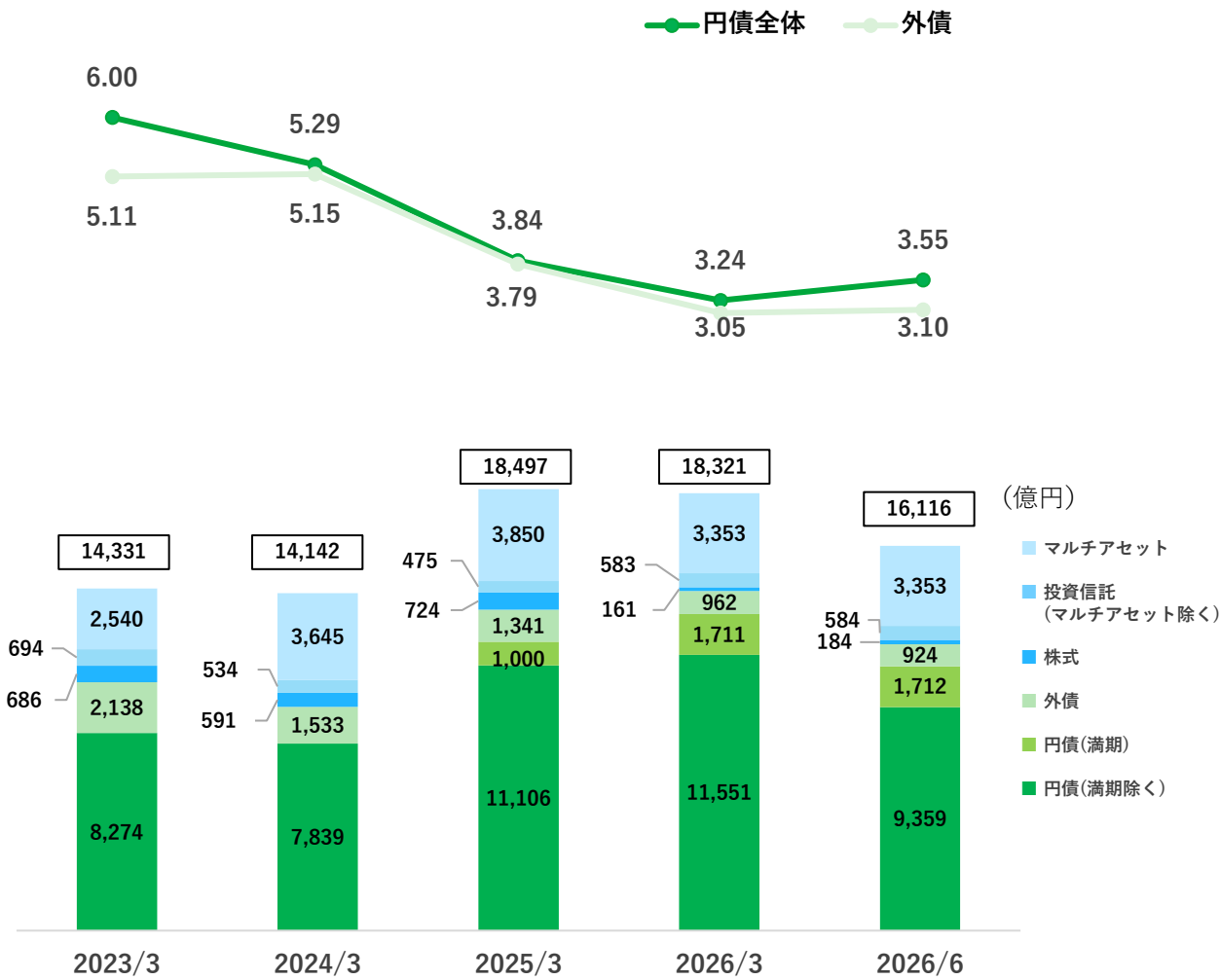
預金・貸出金の残高および利回り

項目	2025/6	2026/3	2026/6	前年同月比
貸出金 平残（億円）	27,007	28,919	30,842	+ 3,835
貸出金利回り（％）	1.189％	1.246％	1.447％	+ 0.258％
預金 平残（億円）	48,626	47,655	48,276	▲350
預金利回り（％）	0.145％	0.167％	0.243％	+ 0.098％
預貸金利回り差（％）	1.044％	1.079％	1.204％	+ 0.160％
（参考）政策金利（％）	0.5％	0.75％	1.00％	+ 0.50％
（参考）個人預かり資産（億円） 公共債、投資信託・北國おまかせNavi、保険窓販	2,837	3,170	3,409	+ 572

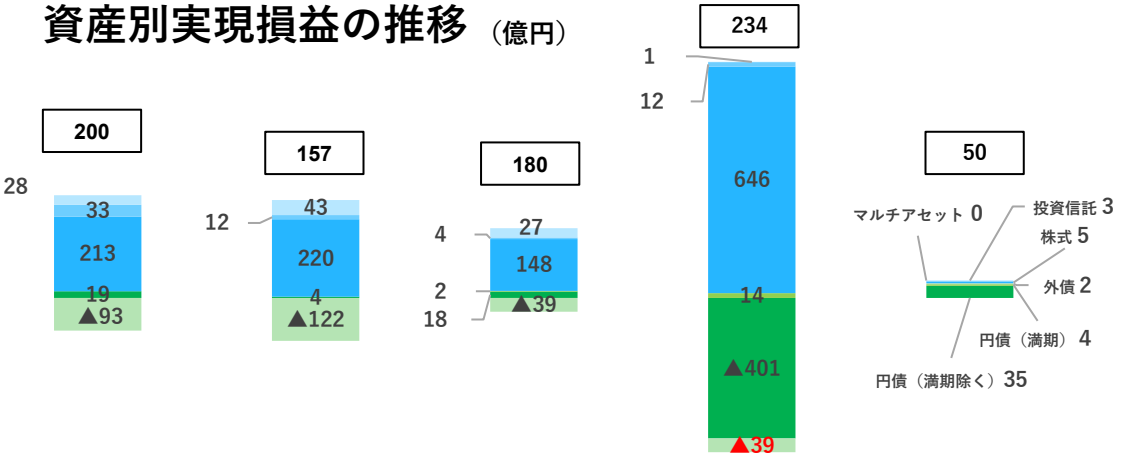
- ・ 貸出金は、事業性貸出金を中心に順調に推移
- ・ 市場連動型貸出金の比率拡大などにより貸出金利の適正化を進めるとともに、預金金利の追随率を約40％程度にコントロールしたことで、利回りを確保
- ・ 預金残高のみならず、個人預かり資産を含めた資産全体を重視し、その拡大に取り組んでいく

有価証券の運用状況と今後の投資戦略

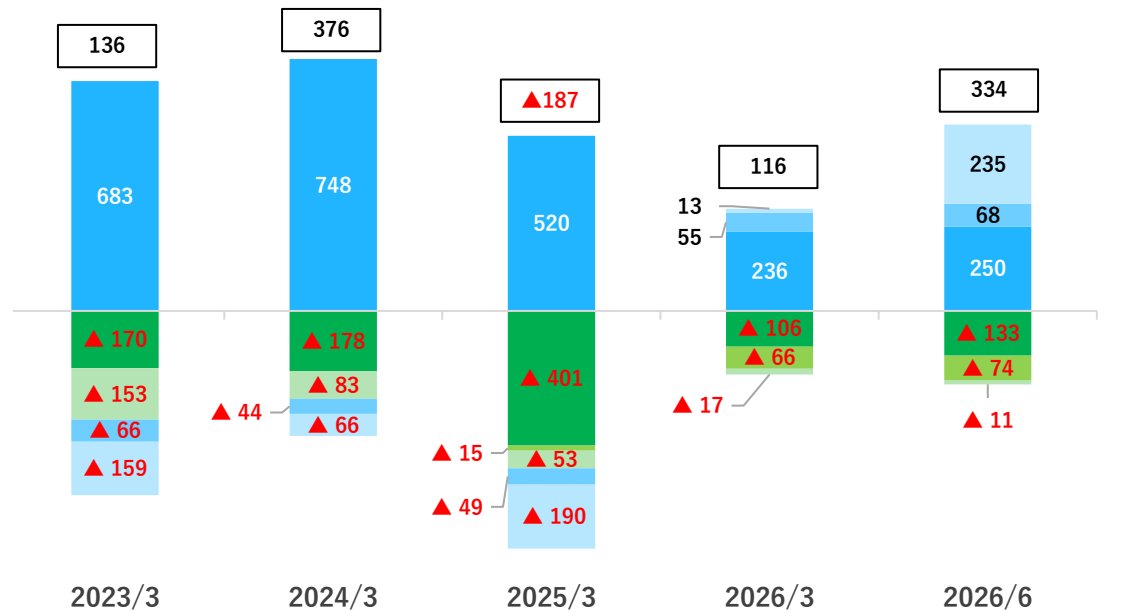
有価証券残高（簿価）とデュレーションの推移（年）



資産別実現損益の推移（億円）



有価証券評価損益の推移（億円）



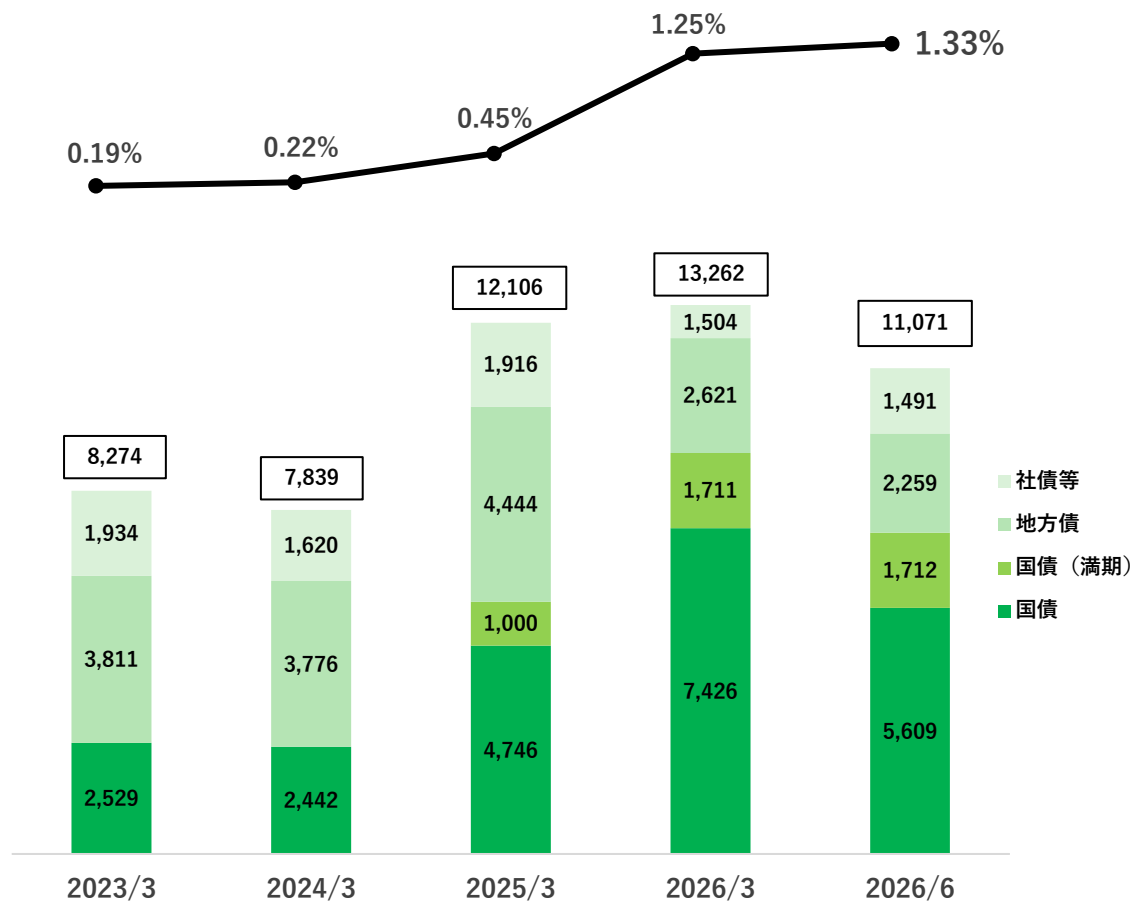
※評価損益には、金利リスクヘッジ目的のデリバティブ取引による繰延ヘッジ損益を含む © CCI Group, inc.

円債投資の状況

■ 円債ポートフォリオ入替に際し、利回り向上を図りつつ、一段の金利上昇に備えたバーベルポジションを構築

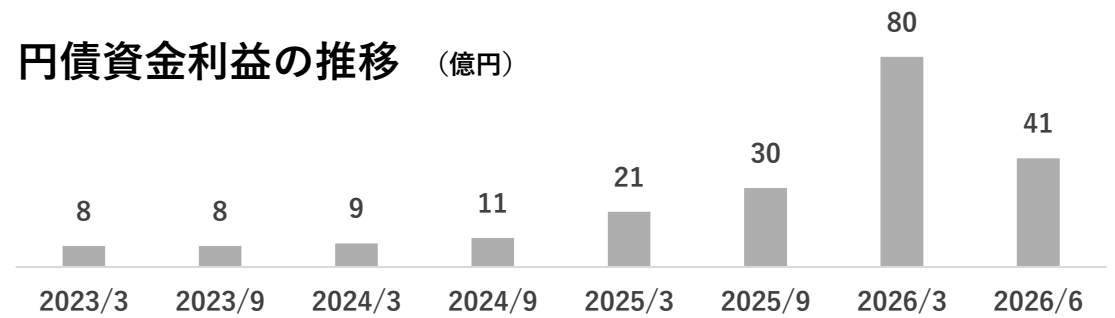
簿価残高と運用利回りの推移

(億円)

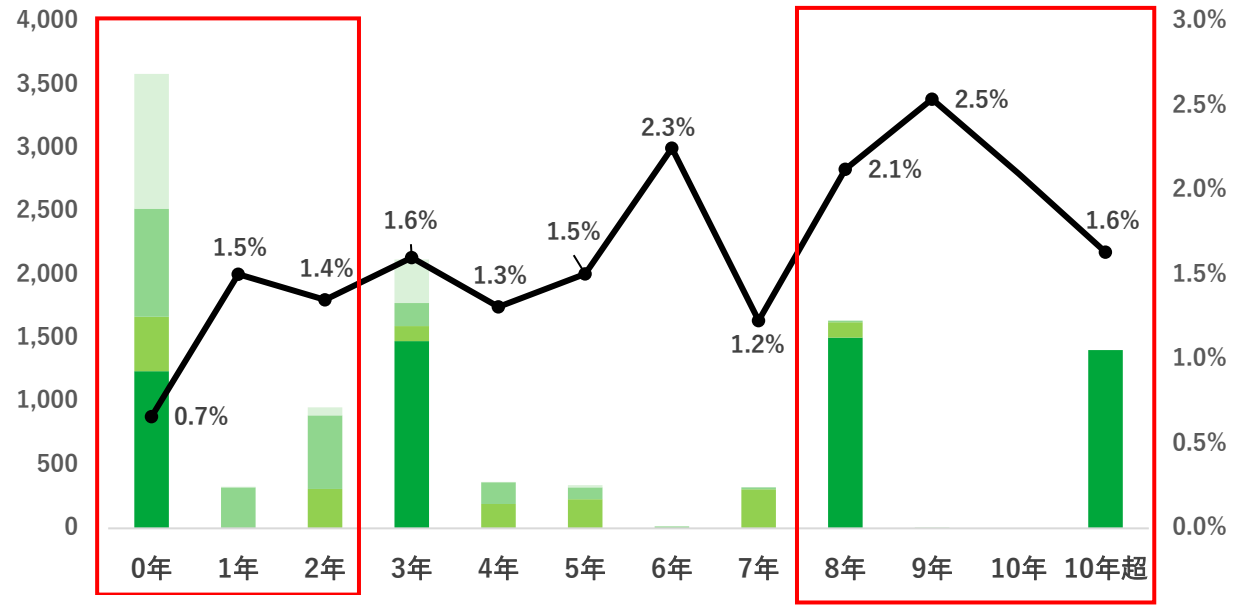


円債資金利益の推移

(億円)



償還ラダーと各年毎の利回り



※10年超は、金利リスクヘッジの金利スワップに対応した国債残高を含む。

事前に株式会社CCIグループの許可を得ることなく、本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、目標対比で異なる可能性があることにご留意下さい。

本資料に関するお問い合わせ先
株式会社CCIグループ
経営企画部 広報IRグループ
E-mail : cyosa@hokkokubank.co.jp

さあ、協創社会へ。



株式会社CCIグループ

<https://www.ccig.co.jp/>

